

国分寺中学校区

【目指す子ども像】

- 学び合い高め合う子ども
- 主体的に人や社会に関わる子ども
- 心身共に健康で自分を大切にしている子ども

【実践研究課題】

学び合いを深める聴く・伝える・関わる力の育成

各部会の取組

<学習指導部会 学力向上チーム>

【児童生徒の実態】

- ・課題にまじめに取り組める児童生徒が多い一方、進んで課題を見付け、取り組もうとする意欲には個人差がある。
- ・読書量に個人差が大きく、読書習慣が身に付いていない児童生徒がいる。

【チームのねらい】

- ・学習習慣や生活習慣の見直しを保護者に啓発し、家庭学習の習慣を身に付けることができるようにする。
- ・自分で課題を決定し、取り組むことを通して、自己肯定感や主体的に学習する態度を高めることができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の工夫改善 | 教育活動の連続性の確保 | <C> 教職員間の連続・協働 | <D> 家庭・地域との連携・協力 |
|----|------------------|--------------------|-------------------|---------------------|
|----|------------------|--------------------|-------------------|---------------------|

| | |
|----|--|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・国中実力テストに合わせた小中一斉の「家庭学習協調週間」の実施 ・読書活動の活性化を図る「家読の実施」 ・参考となる自主学习ノートの掲示 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習協調週間の期間中は、自主学习もノーメディアデーも意識して取り組んでいる。 ・家庭学習協調週間の期間中に土日を含んでいたこともあり、家庭学習に保護者にじっくりと関わっていただくことができた。 ・中学校の実力テストに家庭学習協調週間を合わせたため、中学生にとってもじっくりと学習する機会となった。 ・家読を通して家庭で読書をする機会を作ることができ、保護者からも前向きなコメントをいただいた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習協調週間も、家読も、取り組み方に個人差、家庭差がある。 ・家庭学習協調週間も家読も家庭での取組となるが、家庭での取組をより活発にするため、学校としての関わりを考えていく必要がある。特に、低学年のうちから自主学习の課題設定の仕方などについて丁寧に指導し、励ますことで学習内容の質や意欲を高めていく必要がある。 |

<学習指導部会 授業研究チーム>

【児童生徒の実態】

・友達と協力して学習に取り組む姿が多く見られる。聴き合うことで自分の考えを深めていく点において課題がある。

【チームのねらい】

・「聴く力」の育成を目指す授業を行うことで、子ども達の学びが深まるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|---|------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「聴く」に注目した授業実践と取組の共有 ・他校の公開授業の参観 | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・1人1授業の成果と課題を各校でまとめ、3校の振り返りを共有する。 ・教師が聴くことを意識した授業を行ったことにより、子ども達の授業の姿から、聴く意識が高まっていると感じている。 ・話し合いの場としてICTの活用が有効的であることが分かった。 | | | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・学年の実態や、個人の能力により、聴く力に差が出てしまう。 ・聴くことによる学習の深まりや高まりへつながるよう、質を高めていくことが必要である。 | | | |

<学習指導部会 特別支援チーム>

【児童生徒の実態】

・見通しを持つことが苦手で、不安をもちやすい児童が多い。
・障害の特性や個々の差は大きい。書くこと、話すこと(発表・会話)の表現することやコミュニケーションについての課題のある児童が多い。

【チームのねらい】

・小中間の連続性のある支援や教育活動の確保を図り、児童生徒一人一人の持てる力を高め、主体的な生活ができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|---|------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の滑らかな支援の継続を推進するための、教職員間、学校と保護者間における情報交換 ・他者理解や自己の成長に気付いたり、将来に対するイメージの獲得につながる児童生徒間の交流 ・表現力やコミュニケーション力を高める指導の工夫とプログラムの共有や情報交換 | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・6年児童と保護者の中学校特別支援学級授業参観と保護者説明会を7月に行ったことで、児童にとっても中学校生活について考える良いきっかけとなった。「中学校の様子を見てから就学相談ができてよかった。」と保護者からの声があった。 ・表現力・コミュニケーション力を課題とする児童生徒には、条件のある型にはめた方法やタブレットの活用は効果的である等、指導の工夫について考えることができた。 ・小学校の生活の様子を聞いたり見学したりすることにより、中学校で身に付ける力について考え、継続した指導計画を立てる参考になった。 | | | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・体験や経験したことを自分の言葉で表現できるような指導につなげていくことが今後の課題である。 ・小学校で培った力を中学校でも伸ばしていくために、小中学校間で細かな個々の情報交換をする必要性がある。方法について更に検討が必要である。 ・市の行事が雨天中止のため、6年生以外の児童は中学生との交流ができなかった。市の行事以外に、児童生徒が交流できる機会について考えていく必要がある。 | | | |

<児童・生徒指導部会 子ども未来プロジェクトチーム>

【児童生徒の実態】

- ・基本的な生活習慣は身に付いている。反面、生活習慣の乱れが見られる児童もいる。
- ・同学年の中でも、考えや行動に年齢差が見られる。

【チームのねらい】

- ・交流活動を通してお互いに理解を深め、つながりを意識したコミュニケーションを図ろうとすることが出来る。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|

| | |
|----|--|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校生徒会役員と小学校計画(企画)委員会児童のSNSといじめについての話し合い・ポスター作成 ・小学生と中学生のあいさつ運動 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、久しぶりに対面で話し合いの活動を行うことができたのは良かった。 ・あいさつ運動のおかげで雰囲気少し明るくなった。 ・中学生との交流で良い刺激を受けることができた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を、期間を絞って行った。継続性のある取組を検討する必要がある。 ・SNSの話し合いに関しては、小学校と中学校でねらいが違うため、共通の目標で活動することが難しかった。ねらいについて検討する必要がある。 |

<児童・生徒指導部会 児童生徒指導チーム>

【児童生徒の実態】

- ・多くの児童生徒が元気に生活できている。
- ・基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒は多いが、特に配慮を要する児童生徒も在籍している。

【チームのねらい】

交流活動を通してお互いに理解を深め、時と場に応じたあいさつや言葉遣いができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|
|----|----------------------|------------------------|-----------------------|-------------------------|

| | |
|----|---|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中交流会の実施 ・ソーシャルメディア使用の決まりの作成 ・子ども未来プロジェクトチームとの連携 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中交流会を実施することができた。 ・子ども未来プロジェクトと連携し、国分寺中学校区の児童生徒の実態をもとに、ソーシャルメディア使用の決まりを検討、作成することができた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつを進んですること」や「SNSの決まりを守ること」についての家庭との連携の在り方を検討する必要がある。 |

<健康安全部会 体力向上チーム>

【児童生徒の実態】

・新体力テストにおいて、体力優秀校に選ばれるなど中学生の体力は高い。しかし小学校では種目によって違うが、全体的に県平均を下回っている。また、中学校でも体力テストの結果の二極化が見られる。

【チームのねらい】

・各学校の課題の改善するための実践を積み重ねることで、小中間のギャップを軽減し、基礎体力を向上させることができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|---|------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上のための周回運動を取り入れた準備運動 ・国中体操の実践 ・各学校におけるICTを活用した授業実践と共有 | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校で行う準備運動を取り入れたことで、中学校を意識しながら、体力の向上を図ることができた。 ・ICTを使った授業実践を小、中で共有することで、体育や保健の授業で効果的な使用について、複数の方法を検討することができた。 | | | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動や周回運動に関してすぐに結果が出るものではないことから、来年度も継続して実施する必要がある。 ・ICTの授業実践は効果に対して、時間がかかり、運動量が減ってしまうことから、どの単元でICTを使用するのか、時間をかけずに使用するにはどうしたらよいか考え、今後も実践していく必要がある。 | | | |

<健康安全部会 健康づくりチーム>

【児童生徒の実態】

・基本的な生活習慣が定着している児童生徒が見られる一方、勉強や習い事、メディアの使用などで就寝時刻が遅くなり、生活習慣の乱れへとつながっている児童生徒も少なくない。就寝時刻が遅くなることで朝起きられず、朝食欠食につながっている児童生徒の割合が2年ほど前から増加傾向にある。

【チームのねらい】

・生活習慣の基本である「早寝・早起き・朝ごはん」の定着を図ることで、心身共に健康で自分を大切にすることができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の 工夫改善 | 教育活動の 連続性の確保 | <C> 教職員間の 連続・協働 | <D> 家庭・地域との 連携・協力 |
|----|--|------------------------|-----------------------|-------------------------|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明けの生活習慣改善を図る「生活習慣見直しWeek」の設定 ・家庭への啓発を図る保健だよりの小中一貫コーナーの工夫 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を進める小中共通の校内放送 | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・長期休業明けの生活習慣見直しWeekが定着し、保護者・児童生徒共に生活リズムの改善に積極的に取り組む姿勢が見られた。 ・毎年同じアンケートを実施することで、経年変化の把握に有効であった。 ・保健だよりや校内放送などの情報発信は、児童生徒の意識付けにつながった。 | | | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組だけでは生活習慣の改善は難しいため、よりいっそう家庭からの協力を得るための手立てを考えていきたい。 ・児童生徒のみならず、保護者からも朝食について振り返るためのアンケートができるとよい。 ・保健だより・食育だより以外にも情報発信できるとよい。 ・教職員の意識を高めるためにも、給食指導の在り方について共通理解を図る必要がある。 | | | |

<地域連携部会>

【児童生徒の実態】

・地域のボランティア団体や公民館、小中学校が連携を図りながら活動を行うための体制を整備することができる。児童生徒は、小中学生と一緒に活動を行う機会を楽しみにしており、地域の方との交流にも、意欲的に取り組んでいる。

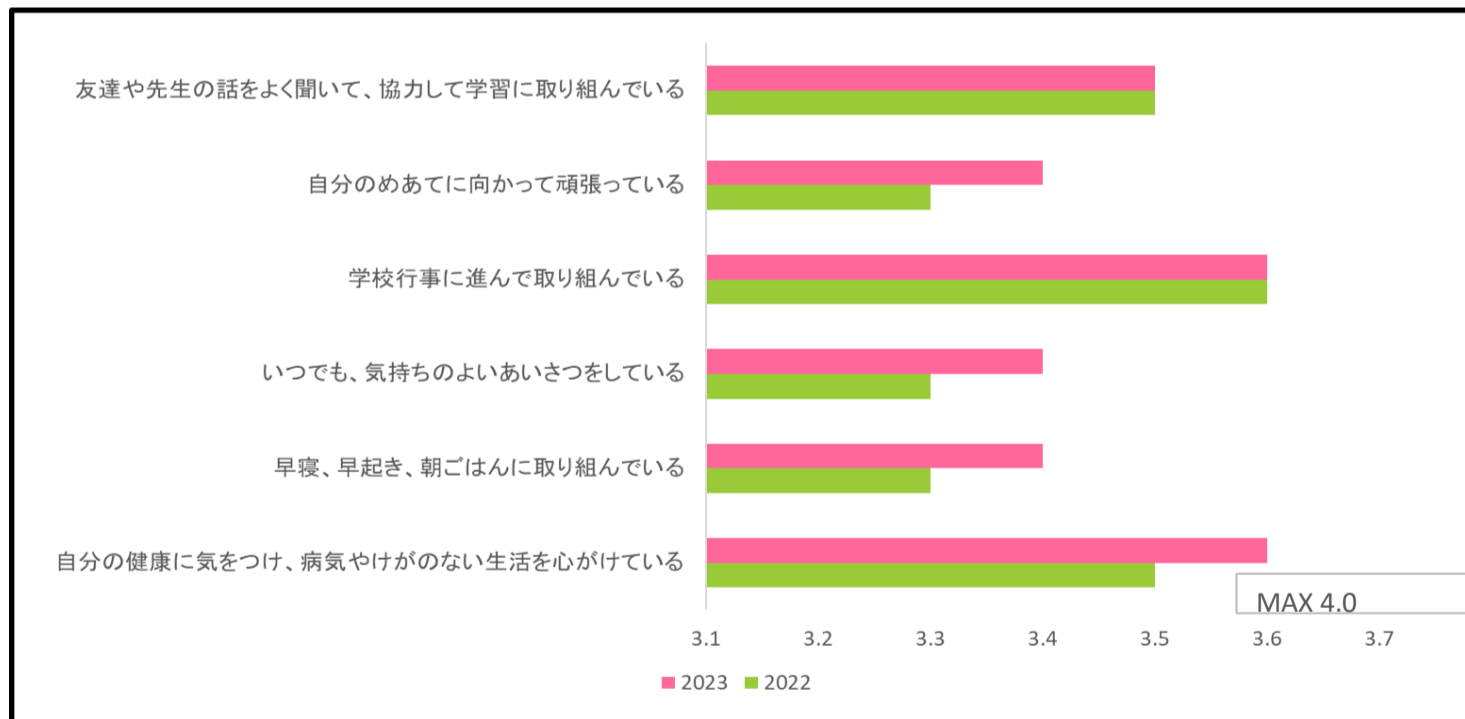
【部会のねらい】

・児童生徒が進んで活動に取り組むことで、主体的に人や社会に関わることができるようにする。

| 視点 | <A> 教育課程の工夫改善 | 教育活動の連続性の確保 | <C> 教職員間の連続・協働 | <D> 家庭・地域との連携・協力 |
|----|--|--------------------|-------------------|---------------------|
| 取組 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生による小学生への本の読み聞かせ ・3校と国分寺公民館での作品交流 ・国分寺跡の里山活動 | | | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・作品交流は、各学校の作品を公民館に展示、その後は各学校でそれぞれの作品を展示した。児童生徒から、互いの作品を見るよい機会となったこと、今後もこの活動を継続していきたいとの感想があった。 ・里山活動は、小学生、中学生共に、活動の意義をよく理解して取り組んでいる。今後も継続したい。 ・本の読み聞かせについて、今年度は中学生との交流の機会として計画できた。 | | | |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・どの活動も、今後も継続して行っていきたい。そのために、係等の引継ぎをきちんと行い、次年度を見通した計画を立てておく。特に、本の読み聞かせについては、小学校の地域ボランティア(図書ボランティア)の方との連絡も併せて行っていく必要がある。今後も中学校と小学校との連携を密にして計画を進めていきたい。 ・里山活動については、今後も活動の意義をよく理解させて、児童生徒が地域への関心を高めていけるようにしていきたい。 | | | |

<令和5年度の取組のまとめ>

【国分寺中学校区小中一貫教育成果指標の推移】



| | |
|----|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の複数の項目の伸長から、各部会の取組が有効であったと考えられる。 ・児童生徒が、めあてを明確にして様々な活動に取り組み、自己肯定感の高まりがうかがえた。 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・小中のつなぎである4・3・2の3の部分について、児童生徒の交流などの取組を丁寧に行うなど、連携を強める手立てを講じていく必要がある。 ・学習や生活に関する取組については、家庭の協力や意識によって大きく変わるため、家庭や地域への啓発をさらに行う必要がある。実践している様々な取組について知ってもらい、小中一貫教育の成果を共有できるような工夫を考えていきたい。 |

授業研究チーム



「聴く力」に着目した授業の様子

特別支援チーム



6年生児童と保護者の中学校授業参観

学力向上チーム

うちどく 家読カード

読書の方法

※取り読みだもの番号に○をつけてください。

- ① 家の犬からお子さんへの読み聞かせ
- ② お子さんから家の犬への読み聞かせ
- ③ すきな本を家の犬と一緒に読む。
- ④ 同じ部屋に家の犬とそれぞれの本を読む。
- ⑤ 読んでおもしろかった本を家の犬に紹介する。
- ⑥ おすすめの本を家の犬と紹介し合う。
- ⑦ 読んで本を家の犬と紹介し合う。
- ⑧ 家の犬と公共図書館で本を借りて読む。

①～⑧のいずれかの方法で読書をしたら、本の題名と白にち、感想を書きましよう

【期間】 9月29日(金)～10月10日(火)

本の題名 読みだす 月日 名前

かみさまのベビーシッター

読んで本の感想

こうすけやかみさまのまわりでおもしろいことやぶしぎなことがいろいろおこって、おもしろいし、まだ生まれなばかりなのにねがいをかなえられてすごいと思いました。

家の人の感想(読んで本や家読の取組などについて、記入をお願いします。)

読書の回数や家で本をおもしろく読んで、何回か読み、内容を覚えてくたふた。おもしろい本は、難しい本は、自分のおこりで読んで、読書を

このカードは、10月11日(水)までに担任の先生に提出してください。

体力向上チーム



跳び箱 跳ぶ際に動画を撮り、アドバイスしあう様子

健康づくり・食育チーム



「早寝・早起き・朝ごはん」校内放送の様子

児童生徒指導チーム

SNSやインターネットを使う時の決まり

- 1 情報の発信には責任をもとう。個人情報や許可無く写真を掲載したり、面と向かって言わないことを書いたりしないようにしましょう。
- 2 SNSやオンラインゲーム、メール、動画へのコメントでは、悪口を書かないようにしましょう。
- 3 スマートフォンやオンラインゲーム、インターネット、動画視聴は、時間を決めて使用しよう。自分の部屋で夜遅くまで使用するのはやめよう。
- 4 スマートフォンやオンラインゲーム、インターネット、動画の視聴は、保護者と決まりを必ず話し合い、決まったことは必ず守ろう。

子ども未来プロジェクトチーム



SNS注意喚起の3校のポスター掲示

地域連携部会



小学校での中学生による読み聞かせ